

平成 2 8 年度
北海道高等学校長協会家庭部会
調査研究委員会
調査・研究報告書

**問題解決能力・意思決定能力の
育成を目指した指導資料集**

平成 2 9 年 3 月
北海道高等学校長協会家庭部会

1 指導資料集のねらい

(1) 昨年度のアンケート結果より明らかになった課題

- ・課題1 「ホームプロジェクト」「学校家庭クラブ活動」が共通教科「家庭」の3科目いずれにおいても「学校家庭クラブ連盟」加盟・未加盟に関わらず必修指導項目である認識が低い。
- ・課題2 基礎・基本の習得が優先され、問題解決型学習である「ホームプロジェクト」「学校家庭クラブ活動」それぞれが総指導時間数1時間以下である学校が4割を越え、十分に指導時間が確保されていない。
- ・課題3 すでに実践している優れた体験的・実践的学習活動や、校内外で行っている様々な教育活動が、個別に総花的に実施されがちである。

(2) 課題解決の方策＝指導資料集のねらい

- ・ねらい1（課題1の解決方策） 「ホームプロジェクト」「学校家庭クラブ活動」の指導に当たって留意すべき点など、Q&Aを作成し、研究協議会、管内の家庭科研究会等、その他家庭科教員の研究の機会に紹介し、内容の周知を図る。
- ・ねらい2（課題2の解決方策） 「どのように学ぶか」の観点から問題解決型学習へ発展させる具体的な指導方法の工夫・改善に向け単元計画、本時の指導案、参考資料、ワークシート等を提供する。
- ・ねらい3（課題3の解決方策） ねらい（身に付けさせたい力）「何ができるようになるか」を定め、年度当初から系統的・計画的に教育課程へ位置付け実施できるよう年間指導計画例を提供する。

2 「ホームプロジェクト」「学校家庭クラブ活動」を実践するに当たってのQ&A

Q 1 授業時数が限られた高等学校家庭科の現状で、なぜホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動が必要なのでしょうか。
A 1 高等学校の家庭科では、生涯を見通して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力、すなわち生活課題を自分で見つけ、解決し、生活をより充実向上させる能力と実践的態度を育てることを目標にしています。 そうした能力や態度を育成するためには、受け身ではなく自分事として、各自の生活と地域の生活などを関連付け、自らが主体となる学習とすることが重要です。つまり、学校で学んだことを自分の生活や地域の生活にあてはめて考え、問題を見つけ、その問題を解決し生活を充実向上させるために家庭科の学習を生かし、創意工夫しながら、実践していくことです。 この実践の場となるのが、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動なのです。ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動は、高等学校の家庭科において、最も特色のある実践的な学習活動なのです。また、学習指導要領上の中に位置付けられている内容でもあります。
Q 2 ホームプロジェクトとは、何ですか。
A 2 生徒一人一人が家庭科の学習と実際の生活を結び付け、実践を通して学習を通して学習したことを身に付けようとする問題解決型の学習方法です。 この学習方法は、「学習する生徒自身が問題を発見しテーマを決定し（See）、問題解決するために自発的に計画し（Plan）、実践して（Do）、評価・反省を行う（See）学習活動」であり、プロジェクト・メソッドのひとつです。 高等学校学習指導要領にも「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」として、明確に位置付けられており、家庭科における実践的・体験的学習の中心となっている学習内容・学習方法です。
Q 3 学校家庭クラブ活動とは、どのような活動ですか。
A 3 ホームプロジェクトが個人の活動であるのに対して、学校家庭クラブ活動はグループや学校単位で、学校や地域の生活の充実・向上を目指す実践活動です。 すなわち、家庭科の学習を生かして、生徒が主体となり、家庭科教員の指導や助言を受けて行う学習活動です。学校家庭クラブ活動やホームプロジェクトを実践することは、思考力・判断力・表現力などを育てるとともに、自らが考え判断し、チャレンジする態度を身に付けるなど、貴重な学習体験の場となっています。
Q 4 学校家庭クラブ活動と、特別活動の部活動などとは、どのような違いがありますか。
A 4 学校家庭クラブは、家庭科を学習している生徒一人一人がクラブ員となり家庭科の科目やホームルーム、または活動を希望する有志（グループ）を一つの単位として活動する組織であり、家庭科の学習活動の一つです。教科以外で行われる生徒会や部活動とは、自ずと性質が違いますが、それらと連携を取りながら活動をしていくのは、良いことです。 活動方法としては、主に授業中行う授業活用型と、主に放課後、部活動（調理部、ボランティア部など）や生徒会活動のように行う委員会型があります。また授業と関連・発展させながら、放課後、可能な範囲で活動を行う方法もあります。

Q 5	活動時間について、どのような工夫があると思いますか。
A 5	まず、授業を上手に利用してみることが大切ではないでしょうか。授業内でできること、そうでないことをしっかりと分けて考えてみるのが大切です。授業なら、全員が参加できるメリットがあります。また、授業でできないことは、まず、放課後や昼休みなどの空き間の時間を利用して活動してみるのも良いでしょう。 時間のかかることは、部活動などのように土・日や長期休業日を活用するのも良いと思います。
Q 6	教員の負担を軽減するために、どのような工夫がありますか。
A 6	一人ですべてやろうとするのではなく、生徒、他教科の教員、地域の方々など多くの人の力を借りて活動をしてはどうでしょうか。特に生徒の力（先輩が後輩に伝え指導することなど）をもっと活用する、もしくは現在実施している行事等を見直し生徒会活動、他の部活動などと連携することの一つです。
Q 7	学校家庭クラブ活動と家庭科の授業をどのようにかかわらせたらよいでしょうか。
A 7	年間指導計画の中に位置付け、実施してはどうでしょうか。 次の年間指導計画例の中にホーププロジェクト・学校家庭クラブ活動例を掲載しましたが、年度当初に意図的・計画的に位置付け実施していきます。 他には、授業で学習したことを、さらに発展させるかたちで行うものもあります。例えば、学校行事や地域の行事などに、家庭科で学んだことを生かして協力したり、さらには、企画・運営から関わるなどです。
Q 8	「全国高等学校家庭クラブ連盟」は、どのような団体ですか。
A 8	家庭クラブは、1948年にホームプロジェクトと同時に家庭科教育に取り入れられ、1953年に「全国高等学校家庭クラブ連盟」が誕生しました。 各学校の家庭クラブは、相互に連携し都道府県単位にまとめ、「都道府県高等学校家庭クラブ連盟」を組織しています。各都道府県ごとの活動は全国9つのブロックへ、さらに全国連盟へとつながっています。現在、本連盟はホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を推進する役割を果たしています。
Q 9	「全国高等学校家庭クラブ連盟」の意義や加入のメリットを教えてください。
A 9	北海道高等学校家庭クラブ連盟や全国高等学校家庭クラブ連盟に加盟することによって、主に次のような意義、メリットがあります。 ① 全国研究発表大会での発表の機会があり、活動を広く全国に知らせることができます。また、この大会の発表や運営も生徒が中心で行います。大会の参加は生徒も教員も良い経験となり、生徒の意欲向上、成長や自信につながります。 ② 全国連盟では、様々なコンクールを実施しています。このようなコンクールに応募することも自分の力量を全国的に評価する機会であり、励みになります。

3 年間指導計画例

(1) 「家庭基礎」(2単位) 指導計画例

<目標>

人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

<評価の観点>

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

各単元における指導のねらいを明確に示す

各単元において、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動について各単元で学ぶ内容と関連付けられ、発展できるよう具体的活動内容を例示する

月	単元（項目）	指導項目	指導のねらい	予定 時数	ホームプロジェクト 学校家庭クラブ活動例
4	オリエンテーション (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・「家庭基礎」の目標、内容を理解させる。 ・意義と実施方法について理解させる。	1	<実践事例1> ホームプロジェクトと 学校家庭クラブについて
5	(1) 人の一生 と家族・家 庭及び福祉	ア 青年期の自立と家族・家庭 (7) 青年期の自立 (4) 生活と意思決定	・生涯発達の視点で青年期の課題を認識させ、男女が協力して家庭を築くことの重要性を考えさせる。	3	
6		イ 子どもの発達と保育 (7) 子どもの生活と家族・家庭 (4) 子どもの育つ環境	・子どもを生み育てることの意義を考えさせ、子どもの発達のための親や家庭及び地域社会の果たす役割を認識させる。	8	保育園訪問・交流 →学校家庭クラブ活動
7		ウ 高齢期の生活 (7) 高齢期の特徴と生活 (4) 高齢社会を生きる	・高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識させる。	8	<実践事例3> 高齢者施設訪問・交流 →学校家庭クラブ活動
		エ 共生社会と福祉 (7) 家族・家庭と社会的支援 (4) 共生とコミュニティ	・生活課題を主体的に解決し、よりよい生活を創造するために必要な福祉や社会的支援を理解させる。	3	
8	(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・ホームプロジェクトの立案をさせる。	2	<実践事例1> ホームプロジェクト 課題発見・計画
	(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・成果を発表し、次の課題につなげる。	2	<実践事例1> ホームプロジェクト 成果発表
9	(2) 生活の自 立及び消費 と環境	オ ライフスタイルと環境 (7) 消費生活と環境とのかかわり (4) 環境負荷の少ない生活への取組	・様々な環境問題が生じていることを理解させ、生活意識やライフスタイルを見直すことができるようにする。	4	校内省エネ運動 →学校家庭クラブ活動
10		エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画 (7) 消費者問題と消費者の権利 (4) 生涯の経済計画とリスク管理	・消費生活の現状や課題、消費者の権利と責任について理解させ、適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。	5	
11	(2) 生活の自 立及び消費 と環境	ア 食事と健康 (7) 栄養と食事 (4) 食品と調理	・食生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生涯を通して健康で安全な食生活を営むことができるようにする。	20	<実践事例4> 家族の食生活の課題発見・解決方策 →ホームプロジェクト
12		(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・成果を発表し、次の課題につなげる。	(2)	<実践事例2> ホームプロジェクトの 発展学習
1	(2) 生活の自 立及び消費 と環境	イ 被服管理と着装 (7) 被服の機能と着装 (4) 被服の管理と計画	・被服管理に必要な知識と技術を習得させ、衣生活を主体的に営むことができるようにする。	4	
2		ウ 住居と住環境 (7) 住居と家族の生活 (4) 安全で環境に配慮した住生活	・住居の機能などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、環境に配慮した住生活を営むことができるようにする。	7	防災時の対応・行動 →学校家庭クラブ活動
3		カ 生涯の生活設計	・自分の目指すライフスタイルを実現するために、生活を設計できるようにする。	3	
計				70 (72)	

(2) 「家庭総合」(4単位) 指導計画例

<目標>

人の一生と家族・家庭、子供や高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

<評価の観点>

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。

【第1学年】

月	単元 (項目)	指導項目	指導のねらい	予定 時数	ホームプロジェクト 学校家庭クラブ活動例
4	オリエンテーション		・「家庭総合」の目標、内容を理解させる。	1	
	(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・意義と実施方法について理解させる。	1	ホームプロジェクトと学校家庭クラブについて
5	(1) 人の一生と家族・家庭	ア 人の一生と青年期の自立 (7) 人の一生と発達課題 (4) 青年期の課題 (9) 生活の自立を目指す上での意思決定	・生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて認識させる。	8	
6		イ 家族・家庭と社会 (7) 家庭の機能と家族関係 (4) 家庭生活と社会	・現代の家族の特徴や家庭の機能を理解させ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて考えさせる。	9	
7	(3) 生活における経済の計画と消費	ア 生活における経済の計画 (7) 家計と経済 (4) 資金管理とリスク (9) キャッシュレス社会とその課題	・経済社会の大きな変化の中で、主体的な資金管理の在り方やリスク管理の考え方を導入した経済計画の重要性について認識させる。	8	
8		イ 消費行動と意思決定 (7) 消費者の意思決定とその重要性 (4) 生活情報の収集・選択と活用	・消費者としての意思決定の過程と留意すべき事項について理解させ、生活情報を適切に収集・選択し活用できるようにする。	6	
9		ウ 消費者の権利と責任 (7) 社会の変化と消費生活 (4) 消費者問題の現状と課題 (9) 消費者の権利と自立支援	・消費者問題の発生の背景とその被害の防止や救済について理解させ、一人一人が消費者としての権利と責任を自覚して行動できるようにする。	10	公民科と連携した消費者被害防止 →学校家庭クラブ活動
10	(4) 生活の科学と環境	イ 衣生活の科学と文化 (7) 人の一生と被服 (4) 衣生活の自立と管理 (9) 衣生活の文化と製作 (5) 衣生活と環境	・各ライフステージの衣生活の特徴や課題と関連付け、衣生活を主体的に管理し、快適な衣生活を営むための知識と技術を習得させ、主体的に衣生活を営むことができるようにする。	14	高校生クリエイティブコンテスト参加 →学校家庭クラブ活動
11		ウ 住生活の科学と文化 (7) 人の一生と住居 (4) 住生活の計画と選択 (9) 住生活の文化 (5) 住生活と環境	・住居の機能、住空間の計画、住環境などについて科学的に理解させ、住生活の文化に関心をもち、必要な知識と技術を習得して、安全と環境に配慮し、主体的に住生活を営むことができるようにする。	8	バリアフリーマップ作成 →学校家庭クラブ活動
12		ア 生活資源とその活用	・生活の営みに必要な生活資源を有効に活用することの重要性について認識させる。	5	
1	(5) 生涯の生活設計				
2					
3					
計				70	

【第2学年】

4 5	(4) 生活の科学と環境	ア 食生活の科学と文化 (ア) 人の一生と食事 (イ) 食生活の自立と調理 (ウ) 食生活の文化	・各ライフステージの食生活の特徴を理解させ、生涯を見通した食生活の管理運営ができるようにする。 ・調理実習を通して食生活の自立に必要な	20	地域食材を使った地域連携 →学校家庭クラブ活動
7	(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・ホームプロジェクトの立案をさせる。	2	課題発見・計画
8 9 10	(4) 生活の科学と環境	エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立 (ア) 持続可能な消費 (イ) 環境保全に向けたライフスタイルの確立	・経済発展や大量生産・大量消費・大量廃棄の生活により、様々な環境問題が生じていることを理解させ、生活意識やライフスタイルを改め、持続可能な社会を目指すことの重要性を認識させる。	9	校内ゴミ減量運動 →学校家庭クラブ活動
	(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・問題解決能力と実践的態度を育てる。	3	成果発表会
11 12	(2) 子どもや高齢者とかかわりと福祉	ア 子どもの発達と保育・福祉 (ア) 子どもとかかわる (イ) 子どもの発達と生活 (ウ) 親の役割と子育て支援 (エ) 子どもの権利と福祉	・子どもと触れ合う機会をもつことなどにより保育への関心をもたせ、子どもの発達の実際の姿を理解させる。 ・子どもの健やかな発達を支える親の役割などについて認識させる。	14	保育園実習・交流 →学校家庭クラブ活動
1 2		イ 高齢者の生活の福祉 (ア) 高齢者とかかわる (イ) 高齢者の生活と課題 (ウ) 人間の尊厳とケア (エ) 高齢社会の現状と社会福祉	・人の一生を見通して高齢期について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために、個人や家族、社会が果たす役割について認識させる。	13	高齢者施設・一人暮らしの高齢者との交流、 →学校家庭クラブ活動
3		ウ 共生社会における家庭や地域	・ノーマライゼーションの理念を土台とした社会をつくる重要性を理解させる。	5	除雪ボランティア →学校家庭クラブ活動
	(5) 生涯の生活設計	イ ライフスタイルと生活設計	・将来に向けて目標を立て、展望を持って生活することの重要性を理解させる。	4	
計				70	

4 ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動の取組事例

(1) ホームプロジェクト

＜実践事例1＞「家庭基礎」ホームプロジェクトにおける生徒と教員の対話による課題発見・計画までの実践例（小規模校向け）

昨年度アンケート結果を踏まえ

- ① 生徒に身に付けさせたい資質・能力（課題を発見し解決する能力）
- ② 重点指導内容（ホームプロジェクト）
- ③ 指導方法（問題解決学習における課題発見、計画作成）
- ④ ホームプロジェクトの効果（課題を発見する力育成）
- ⑤ ホームプロジェクト指導上の課題（指導方法が分からない、生徒の興味・関心を持たせ自主的に活動させにくい）に該当

【単元の指導計画】

【科目名】「家庭基礎」（2単位）

【単元名】ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

【指導および評価計画】（全 5 時間）

- | | |
|--------------------------|-----------|
| ① 「家庭基礎」のオリエンテーション | 1 時間（第1次） |
| ② 夏休み前の事前学習（HP概要理解、課題発見） | 1 時間（第2次） |
| ③ 夏休み前の事前学習（テーマ決定、実施計画） | 1 時間（第3次） |
| ④ ホームプロジェクトの発表、反省・評価 | 2 時間（第4次） |

	【ねらい】・◆学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第1次	【ねらい】オリエンテーション ・「家庭基礎」の到達目標を確認し、ホームプロジェクトへの取組の重要性と評価方法を理解させる。					
	◆「家庭基礎」の目標とねらいを理解する。 ◆HPと学校家庭クラブ活動について理解する。 ◆夏休みの課題（HP）取組の重要性を理解する。 ◆「家庭基礎」の評価方法と学習内容を理解する。	●			●	・目標やねらい理解し、大まかな流れがわかる。 ◇自校作成プリント、シラバス

第2次	【ねらい】ホームプロジェクトの概要理解、問題発見 ・ホームプロジェクトの意義を理解し、生徒自身が生活課題の中から問いを持たせる。					
	◆過去の全国大会DVDから、ホームプロジェクトの実践例を紹介する。 ◆各自の家庭生活における問題を考え、解決すべきステップ1：問題発見を行う。 ※生徒の様子を見て、どこで困っているのか声掛けをする。 ◆各自の生活課題について、ワークシートに記入し、提出する。 ※各生徒の進捗状況の把握	●		●		・過去の全国大会DVDからHPの学習内容の概要を理解しようとしている。 ◇観察法 ・各自の家庭生活における問題について、思考を深め、主体的に生活課題を発見できる。 ◇観察法、自校制作のワークシート
第3次	【ねらい】テーマ決定、実施計画 ・前時に考えた各自の生活課題を整理し、焦点化を行い、テーマを決定する。 ・生活課題を解決するための具体的実施計画を立案する。					
	◆ステップ2：テーマ決定をする。 ※ ◆テーマ設定の理由を作成する。 ◆ステップ3：実施計画を立てる。 →生徒は教師の確認を受け、教師は生徒の進捗状況を把握する。 ※困っている生徒へは声掛けをし、具体事例を示しながら、考えるヒントを投げかける。 ※生徒との対話により具体策を引き出す。 ◆ステップ3までは作成させ、夏期休業に入る。 ◆ステップ4：実施 夏季休業中 ◆夏休み明け最初の「家庭基礎」の授業で提出する。	●	●			・生活課題の中から、家庭科の学習内容を生かし夏休み中に取り組める課題に絞り込み、テーマを決定できる。 ・テーマ設定の理由を作成できる。 ◇自校制作プリント・ワークシート (HPレポート用紙) ・各自の課題解決に向けた具体的な方策、実施計画(スケジュール)を作成できる。 ◇自校制作プリント・ワークシート (HPレポート用紙) ・実施状況の記録ができる。 ◇自校制作プリント・ワークシート (HPレポート用紙)
第4次	【ねらい】発表、反省・評価 ・実施したホームプロジェクトの自己評価ができる。 ・ホームプロジェクトの実践について、分かりやすく発表できる。 ・それぞれの実践報告を聴き、相互に評価することにより、いろいろな課題解決の方策があることに気付く。					
	◆実施したホームプロジェクトを自己評価する。 ・レポートのまとめ方を振り返り、題目設定が適切である。研究の計画や進め方が適切である。研究内容が充実している。目標が達成されている。研究内容と方法が適切である。「問題発見」「テーマ決定」「実施計画」「実施」「まとめ」までの流れが一貫している。5段階で自己評価をする。 ◆自己評価表を完成・提出する。 ◆発表の準備をする。 ※発表ができない生徒に対してプライバシーに配慮しつつ、個別指導を行う。 ◆一人2～3分で実践発表をする。 ◆発表を聴きながら評価をする。 ◆相互評価表を完成・提出する。	●				・項目に従って反省し適切に自己評価できる。 ・実践内容を分かりやすく、発表することができる。 ◇観察法（発表内容、態度） ・他者の実践発表から様々な課題解決の方策があることに気付くことができる。 ◇ワークシート

【本時の学習指導案】

本時の主題	「ホームプロジェクトの事前学習」(3 時間目 / 5 時間) ～ テーマ決定、実施計画作成 ～			
本時の目標	・ステップ2「テーマ決定」：・前時に考えた各自の生活課題を整理し、焦点化を行い、テーマを決定する。 ・ステップ3「実施計画」：夏休み中に生活課題を解決するための具体的実施計画を立案する。			
過程	指導内容	学習活動	評価規準/評価方法	指導上の留意点
導入	・本時の学習内容の確認	・本時の目標を知る。 ●前時に発見した各自の生活課題を絞り込み、テーマを決定し、実施計画を作成する。		・教科書、自校作成プリント、レポート用紙の準備ができている。
展開	・ホームプロジェクトの事前学習 【ワークシート2】	・レポート用紙のステップ2を記入する。 ・夏休みのホームプロジェクトのテーマを決める。(目標の明確化) ・レポート用紙のステップ3を記入する。 ・テーマに合わせ、課題解決のための実施計画をたてる。(構想を練り、具体的方策を考える。)	【思考・判断・表現】 ・課題発見した内容から、家庭科で学ぶ知識・技術を生かして、夏休みにできるホームプロジェクトのテーマを決める。 〈評価方法〉 ◇ホームプロジェクトのレポート用紙の記入状況 ◇観察法 【思考・判断・表現】 ・テーマが決定後は課題解決のための実施計画を立てられる。→提出 ・夏休みの「ホームプロジェクトの予定表(スケジュール表)」を作る。 〈評価方法〉 ◇レポートの記入状況、観察法、質問や発言	・生徒の様子を見て、どこで困っているのか声掛けをし、考えるヒントを投げかける。 ・生徒の質問に丁寧に答え、次のステップに繋げる。 ・テーマの決め方が、その生徒が夏休みに取り組める内容か、簡単すぎないかなど、個人に合わせたアドバイスを行うように気を付ける。 ・こちらから押しつけない。主体性を大事にする。 ・前時までの授業内容を確認させ、内容に「調べ学習」を入れたり、実際の実施期間を検討するなどして、実施可能な計画を作成させる。
まとめ	・本時のまとめ	・夏休み前に行うこと、夏休み中に行うこと、提出日の確認をする。		・ステップ3まで夏休み前までに終わらない場合は、休み時間等を利用して、個別に対応

〔ワークシート1〕 問題発見に向けたチェック表

ステップ1 問題発見

ホームプロジェクトに取り組むにあたって、下記のチェック表を参考に問題点を発見しよう。

① 経験のあるものには、番号の横にシ点をつけてみよう。

② 普段から意識していることや関心のあるものには、「意識関心」の欄に○印をつけてみよう。

分野	番号	シ点	チェック内容	意識関心
家族・家庭	1		生活時間の有効なつかいかたを心がけている	
	2		家族と過ごす時間や会話を大切にしている	
	3		家事を理解し、自分のできるところをしている	
	4		自分の生活設計（ライフプラン）を考えている	
	5		日本や地域の伝統を生かして、生活に取り入れている	
食生活	6		一日3回、栄養バランスを考えた食事作りをしている	
	7		家庭や地域に伝わる食文化を大切に、生活に取り入れている	
	8		食品の衛生（食中毒など）や安全性（食品添加物など）に気をつけている	
	9		生活習慣病など健康を考えた食事作りをしている	
衣生活	10		衣服の購入は計画的に行っている	
	11		TPOにあった服装を整えることができる	
	12		品質表示を参考にした衣服の取り扱いをし、自立に向けた衣生活管理ができる	
	13		ボタン付けや裾の直しなどの基礎的な技術を持ち、自分でしている	
住生活	14		家は住み心地のよい場所になっている	
	15		住まいの清掃は定期的に行っている	
	16		住まいの安全対策（災害・防犯・バリアフリーなど）やシックハウスを知っている	
	17		地域の取り組み（生活のルール・防火防災訓練など）を知っている	
消費生活	18		生活情報ほ適切に取り入れ、暮らしに活かしている	
	19		消費者トラブルに関する知識を持ち、巻き込まれないようにしている	
	20		資源・環境に配慮した消費行動を実践している	
	21		計画的な金銭の運用（無駄遣いをしないなど）を心がけている	
	22		地域の産物（地産地消）を意識した商品選びをしている	
保育・高齢者	23		子どもや高齢者または障害のある人の生活や心身の特徴を理解している	
	24		子どもや高齢者または障害のある人をとりまく環境について考えたことがある	
	25		ボランティアや介護をした経験がある	
	26		児童文化財や昔の遊びを知っている	
	27		ユニバーサルデザインを取り入れた商品を知っている	
環境など	28		家族みんなで協力し合い、節水、節電などを心がけている	
	29		資源を無駄にしないよう（リフォーム・リサイクル・リメイクを含む）生活している	
	30		グローバルな視点（地球規模）で考え、フェアトレード商品購入などの行動ができる	
	31		地域の取り組み（清掃活動・地域の祭りなど）を知っている	
	32		防災対策（避難場所・連絡方法など）を家族で話し合い、備えている	
			合 計	

（出典：「FHJ～ガイドブック&ワークブック」より）

〔配布資料 1－1〕

家庭基礎

1 年 組 番 氏名

夏休み課題 ホームプロジェクト

ホームプロジェクトの取り組み方（教科書 P ～ ）

step1：問題発見

- ・ 日常の自分や家族の生活の中で、問題と感ずることや改善した方がよいと感ずられるテーマに取り上げる。
- ・ 思ひ浮かばないときは、チェックリストを参考にしてみましょう。

step2：テーマ決定

- ・ チェックして発見した問題の中から、興味のあるものや取り組んでみたいものをテーマにする。

- | | | |
|------|-------|---|
| テーマ例 | 1 食生活 | <ul style="list-style-type: none">・ 簡単でバランスのよい朝食作り・ お弁当に一工夫・ エコクッキング①ゴミを最小限にする調理を考える
②環境に優しい調理法を考える・ ぼくの食生活改善プロジェクト・ 旬のものや地域の特産物を取り入れた食生活 |
| | 2 衣生活 | <ul style="list-style-type: none">・ 不用衣料のリフォーム・リサイクル・ カラーコーディネートをとり入れた着用の工夫・ 自分の服を自分で洗濯「繊維の種類で洗い方を変える」 |
| | 3 住生活 | <ul style="list-style-type: none">・ 機能性を考えた収納・ 暑い夏を快適に過ごす住まいの工夫 |
| | 4 保 育 | <ul style="list-style-type: none">・ 子どもの発達を考えたおもちゃ作り・ 子どもが喜ぶ外遊びを考える |
| | 5 環 境 | <ul style="list-style-type: none">・ 水質汚染を防ぐ「洗剤を最小限に使用する」・ 我が家の省エネ対策「電気の節約」・ ゴミ問題とリサイクル「分別を徹底する方法」・ 地球環境を考えた生活「水を大切に使う」・ 資源を大切に「紙ゴミを減らせ！・エコバッグの活用」 |

など

〔配布資料 1－2〕

step3：計画

- ・テーマに沿って、計画を立てる。
（カレンダーを見て、何日に何をするのかを記入すること。）
- ・調べることと、実践することが入るようにする。
（調べるときに教科書やインターネット、関連の本、ニュース、新聞などを活用し、問題解決に必要な正しい知識を得ることが大切。）

step4：実施

- ・具体的な活動内容がわかるようにレポート用紙にまとめること。
- ・実施計画の内容に基づいてまとめていくこと。
- ・必ず、写真や詳細な図、調べたデータ、料金表などを入れること。
- ・自宅にPCやプリンターがない場合は、スマートフォン等で写真を撮り保存しておくこと。
- ・レポート用紙には写1、写2…などわかりやすい記入をしておくこと。

step5：評価・反省・まとめ

- ・最後に活動からわかったことやまとめ、今後の課題を記入する。自己評価もしてみよう。
家族からのコメントがあると、よりいっそう良いですね。

※教科書P ～ ページや配布されたプリントを参考にレポート用紙にまとめる。

※この課題は各自の家庭で取り組む課題です。家族に相談しながら計画を立ててもかまいません。
相談した内容や家族のコメントもレポートに記入できるとよりいっそう良いですね。

※レポートの最後に活用した資料を記入する。

例）参考文献：教科書P30、NHK今日の料理、北海道新聞H28.7.26朝刊…など

※この課題の評価は、家庭基礎の評価に含まれます。

提出日は8月の一番最初の家庭基礎の時間です。

【ワークシート2】 夏休みの課題 ホームプロジェクト レポート用紙

Step1：問題発見 家庭で見つけた課題

Step2：テーマ決定

Step3：計画 ①なぜ、このテーマにしたのか？

②調べること

③実践すること

Step4：実施 計画の内容に基づいてまとめる ※必ず、写真やデータなどを添付する。

Step5：評価・反省・まとめ

〔ワークシート3〕ホームプロジェクト反省・評価用紙

Step5：評価・反省・まとめ

自己評価		合計16点満点で評価してみよう。				点 数			
1 題目設定について	・テーマは目標を明確に表したもので、興味関心をもって積極的に取り組めるものであったか。 ・テーマを決めた理由は、より良い生活を営むためのものであったか。 ・家族の理解・協力が得られ、自分の力でできるものであったか。	1	2	3	4				
2 実施計画について	・テーマにそったもので、目標を達成するための完全方法が考えられるか。 ・計画に無駄がなく、手順・日程・予算費用などが考えられているか。 ・実態調査や資料収集など、計画手を実施できるようになっているか。	1	2	3	4				
3 実施状況について	・計画にそって実施できたか。 ・問題点の改善・向上のための実践であったか。 ・実施記録がきちんとまとめられているか。 (メモ、写真、資料、事件・調査結果など)	1	2	3	4				
4 反省	・テーマの内容について、改善・向上ができたか。 ・一生懸命取り組むことができたか。 ・ホームプロジェクトの進め方が理解できたか。	1	2	3	4				

合計 _____ 点

今後の課題

家族・友人・先生のコメント

(出典：「FHJ～ガイドブック&ワークブック」より)

<実践事例2>「家庭基礎」ホームプロジェクトにおける成果発表会の効率化を図った実践例（中～大規模校向け）

昨年度アンケート結果を踏まえ

- ① 生徒に身に付けさせたい資質・能力（コミュニケーション能力、自己表現力）
- ② 重点指導内容（ホームプロジェクト）
- ③ 指導方法（成果発表、グループワーク）
- ④ ホームプロジェクトの効果（コミュニケーション能力・発表力・まとめる力育成）
- ⑤ ホームプロジェクト指導上の課題（時間の確保が難しい、指導方法が分からない）に該当

【単元の指導計画】

【科目名】「家庭基礎」（2単位）

【単元名】ホームプロジェクト

【指導および評価計画】（3時間～）

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ① 生活自立度チェック・生活課題チェック | 1～1.5時間（第1次） |
| ② ホームプロジェクトの実践（夏季休業期間の課題） | 時間（第2次） |
| ③ 実践紹介 | 0.5～1時間（第3次） |
| ④ ホームプロジェクトの発展 | 1時間（第4次） |

	【ねらい】・◆学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第1次	【ねらい】課題発見、実施計画作成 ・生活課題を見だし、家庭生活の改善向上を目的に解決しようとする態度を身に付けさせる。					
	◆「FHJ ガイド&ワークブック」や教科書章末課題等を参考に自らの生活課題を見いだす。	●	●			・生活課題や改善に関心をもち、主体的に取り組んでいる。
	◆問題点の解決に向けて、具体的な計画を立てる。					◇ワークシート
第2次	【ねらい】計画、実践、反省・評価 ・課題解決に向けて、計画、実践、反省・評価をさせ、課題解決の能力を身に付けさせる。					
	◆ 課題解決に向けて、計画、実践、反省・評価を行い、レポートにまとめる。	●	●	●	●	・計画、実践、反省・評価の過程をレポートにわかりやすくまとめている。 ◇レポート
第3次	【ねらい】自己評価・他者評価 ・多様な生活課題や改善方法に関心をもち、改めて自らの生活課題を見だし、改善しようとする態度を養う。					
	◆他者の研究内容を視聴する。 ※課題レポートをスライドで映写し、教師による紹介を行う。 ※高校生の生活課題の傾向と社会問題とをリンクさせるように留意する。(市民としての自覚・行動へとつなげて、学校家庭クラブ活動へと発展させたい) ※質問等に対し、研究した生徒自身が回答できれば答えさせる。	●	●			・他者の生活課題や改善方法に関心をもち、自身の生活に生かそうとしている。 ◇ワークシート(他者評価・自己評価)
第4次	【ねらい】ホームプロジェクトの発展 ・新たな生活課題を見だし、その解決に向けてグループで取り組ませ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。					
	◆ホームプロジェクト紹介をふまえ、グループで新たな生活課題や改善策を見だし、レポートにまとめる。 ◆(時間あれば) グループ単位で発表し、交流する。	●	●			・グループで協働して課題解決に向けて取り組んでいる。 ・他者に伝わるように、レポート製作や発表を行っている。 ◇ワークシート (他者評価・自己評価) ◇レポート

【本時の学習指導案】

本時の主題		ホームプロジェクトの発展 「よりよい生活のために～生活課題を見だし、改善策を探ろう～」(2 時間目 / 2 時間)		
本時の目標		・ 夏休みのHP紹介と考察(前時実施)をふまえ、グループで協働して生活課題を見だし、改善策を探ることで、知識や思考を深め、実践的態度を養う。		
過程	指導内容	学習活動	評価規準/評価方法	指導上の留意点
導 入	・ 学習内容、 学習目標の 確認 (3分)	・ 本時の学習目標の確認		
展 開	・ 課題テーマ についてグ ループで班 で話し合い をさせる。 (32分) 【ワークシ ート1】	・ グループ班毎に課題テーマを決める。 ・ 以下について話し合い、ワークシートにまとめる。 ●課題の原因・背景 ●グループで考えた改善のために方策・アイディア ●解決のために、個人や家族でできること ●解決のために、地域でできること ●解決のために、市や国にできること	【思考・判断・表現】 ・ 自分の意見をまとめ、班員と共有し、思考を深めている。 ・ レポートにわかりやすくまとめている。 〈評価方法〉 ◇ワークシート・観察	・ 意見が活発に出ないクラスや班には付箋紙を配布し、付箋に書いて提示しながらまとめるように促す。 ・ 机間巡視をしながら、具体的な案が出るように促し、思考を深めさせる。
ま と め	・ 各班で発表 させる。 (15分)	・ 各班の発表を視聴する。 ・ 自班及び他班の発表を評価し、自分の意見をまとめる。	【思考・判断・表現】 ・ 生活改善のためにできることについて、考えを深めている。 ・ 班の意見を他者へ伝えることができる。 〈評価方法〉 ◇発表・観察・評価票など	・ 各班からの意見を全体で共有できるように促す。 ・ 客観的、社会的、科学的な視点での補足を行い、生徒の実践的態度や意欲を促す。

【ワークシート1】記入例

よりよい生活のために～生活課題を見だし、改善策を探ろう～

1年 組 番 氏名

グループ員名

■夏休みのHPから見てくること・・・

特 徴	料理 体験が多い						① 約30分	授業クラスの 「おもしろい」テーマ
考 察	【記入例】 料理に興味あるが 経験少ない。 朝ご飯欠食多い。 間食が多い。	【記入例】 手洗いの方法や洗 濯表示を要確認。 洗濯を人任せ。	長続きするか。片 付けのこつは？ 「ミニマリスト」 って？誰が掃除？	家庭外ではどう か？家族で話し合 ったら？長続きす るには？	発達段階に応じて る？聞き取りは？ 実際に遊んでもら う？	聞き取りは？家庭 内外の改善点は？ 高校生にできるこ とは？UDとは？	高齢者や子どもへ の啓発は？被害に あった？	② 約50分 ③ 約20分 ④ 約10分 ⑤ 約5分 ⑥ 約2分 ⑦ 約1分 ⑧ 約0.5分 ⑨ 約0.2分 ⑩ 約0.1分 ⑪ 約0.05分 ⑫ 約0.02分 ⑬ 約0.01分 ⑭ 約0.005分 ⑮ 約0.002分 ⑯ 約0.001分 ⑰ 約0.0005分 ⑱ 約0.0002分 ⑲ 約0.0001分 ⑳ 約0.00005分 ㉑ 約0.00002分 ㉒ 約0.00001分 ㉓ 約0.000005分 ㉔ 約0.000002分 ㉕ 約0.000001分 ㉖ 約0.0000005分 ㉗ 約0.0000002分 ㉘ 約0.0000001分 ㉙ 約0.00000005分 ㉚ 約0.00000002分 ㉛ 約0.00000001分 ㉜ 約0.000000005分 ㉝ 約0.000000002分 ㉞ 約0.000000001分 ㉟ 約0.0000000005分 ㊱ 約0.0000000002分 ㊲ 約0.0000000001分 ㊳ 約0.00000000005分 ㊴ 約0.00000000002分 ㊵ 約0.00000000001分 ㊶ 約0.000000000005分 ㊷ 約0.000000000002分 ㊸ 約0.000000000001分 ㊹ 約0.0000000000005分 ㊺ 約0.0000000000002分 ㊻ 約0.0000000000001分 ㊼ 約0.00000000000005分 ㊽ 約0.00000000000002分 ㊾ 約0.00000000000001分 ㊿ 約0.000000000000005分 0 約0.000000000000002分 1 約0.000000000000001分 2 約0.0000000000000005分 3 約0.0000000000000002分 4 約0.0000000000000001分 5 約0.00000000000000005分 6 約0.00000000000000002分 7 約0.00000000000000001分 8 約0.000000000000000005分 9 約0.000000000000000002分 10 約0.000000000000000001分 11 約0.0000000000000000005分 12 約0.0000000000000000002分 13 約0.0000000000000000001分 14 約0.00000000000000000005分 15 約0.00000000000000000002分 16 約0.00000000000000000001分 17 約0.000000000000000000005分 18 約0.000000000000000000002分 19 約0.000000000000000000001分 20 約0.0000000000000000000005分 21 約0.0000000000000000000002分 22 約0.0000000000000000000001分 23 約0.00000000000000000000005分 24 約0.00000000000000000000002分 25 約0.00000000000000000000001分 26 約0.000000000000000000000005分 27 約0.000000000000000000000002分 28 約0.000000000000000000000001分 29 約0.0000000000000000000000005分 30 約0.0000000000000000000000002分 31 約0.0000000000000000000000001分 32 約0.00000000000000000000000005分 33 約0.00000000000000000000000002分 34 約0.00000000000000000000000001分 35 約0.000000000000000000000000005分 36 約0.000000000000000000000000002分 37 約0.000000000000000000000000001分 38 約0.0000000000000000000000000005分 39 約0.0000000000000000000000000002分 40 約0.0000000000000000000000000001分 41 約0.00000000000000000000000000005分 42 約0.00000000000000000000000000002分 43 約0.00000000000000000000000000001分 44 約0.000000000000000000000000000005分 45 約0.000000000000000000000000000002分 46 約0.000000000000000000000000000001分 47 約0.0000000000000000000000000000005分 48 約0.0000000000000000000000000000002分 49 約0.0000000000000000000000000000001分 50 約0.00000000000000000000000000000005分 51 約0.00000000000000000000000000000002分 52 約0.00000000000000000000000000000001分 53 約0.000000000000000000000000000000005分 54 約0.000000000000000000000000000000002分 55 約0.000000000000000000000000000000001分 56 約0.0000000000000000000000000000000005分 57 約0.0000000000000000000000000000000002分 58 約0.0000000000000000000000000000000001分 59 約0.00000000000000000000000000000000005分 60 約0.00000000000000000000000000000000002分 61 約0.00000000000000000000000000000000001分 62 約0.000000000000000000000000000000000005分 63 約0.000000000000000000000000000000000002分 64 約0.000000000000000000000000000000000001分 65 約0.0000000000000000000000000000000000005分 66 約0.0000000000000000000000000000000000002分 67 約0.0000000000000000000000000000000000001分 68 約0.00000000000000000000000000000000000005分 69 約0.00000000000000000000000000000000000002分 70 約0.00000000000000000000000000000000000001分 71 約0.000000000000000000000000000000000000005分 72 約0.000000000000000000000000000000000000002分 73 約0.000000000000000000000000000000000000001分 74 約0.0000000000000000000000000000000000000005分 75 約0.0000000000000000000000000000000000000002分 76 約0.0000000000000000000000000000000000000001分 77 約0.005分 78 約0.002分 79 約0.001分 80 約0.0005分 81 約0.0002分 82 約0.0001分 83 約0.005分 84 約0.002分 85 約0.001分 86 約0.0005分 87 約0.0002分 88 約0.0001分 89 約0.005分 90 約0.002分 91 約0.001分 92 約0.0005分 93 約0.0002分 94 約0.0001分 95 約0.005分 96 約0.002分 97 約0.001分 98 約0.0005分 99 約0.0002分 100 約0.0001分

グループ内でテーマを1つ選び、再度、課題と改善点を探ろう

① 約30分
 ② 約50分
 ③ 約20分
 ④ 約10分
 ⑤ 約5分
 ⑥ 約2分
 ⑦ 約1分
 ⑧ 約0.5分
 ⑨ 約0.2分
 ⑩ 約0.1分
 ⑪ 約0.05分
 ⑫ 約0.02分
 ⑬ 約0.01分
 ⑭ 約0.005分
 ⑮ 約0.002分
 ⑯ 約0.001分
 ⑰ 約0.0005分
 ⑱ 約0.0002分
 ⑲ 約0.0001分
 ⑳ 約0.00005分
 ㉑ 約0.00002分
 ㉒ 約0.00001分
 ㉓ 約0.000005分
 ㉔ 約0.000002分
 ㉕ 約0.000001分
 ㉖ 約0.0000005分
 ㉗ 約0.0000002分
 ㉘ 約0.0000001分
 ㉙ 約0.00000005分
 ㉚ 約0.00000002分
 ㉛ 約0.00000001分
 ㉜ 約0.000000005分
 ㉝ 約0.000000002分
 ㉞ 約0.000000001分
 ㉟ 約0.0000000005分
 ㊱ 約0.0000000002分
 ㊲ 約0.0000000001分
 ㊳ 約0.00000000005分
 ㊴ 約0.00000000002分
 ㊵ 約0.00000000001分
 ㊶ 約0.000000000005分
 ㊷ 約0.000000000002分
 ㊸ 約0.000000000001分
 ㊹ 約0.0000000000005分
 ㊺ 約0.0000000000002分
 ㊻ 約0.0000000000001分
 ㊼ 約0.00000000000005分
 ㊽ 約0.00000000000002分
 ㊾ 約0.00000000000001分
 ㊿ 約0.000000000000005分
 0 約0.000000000000002分
 1 約0.000000000000001分
 2 約0.0000000000000005分
 3 約0.0000000000000002分
 4 約0.0000000000000001分
 5 約0.00000000000000005分
 6 約0.00000000000000002分
 7 約0.00000000000000001分
 8 約0.000000000000000005分
 9 約0.000000000000000002分
 10 約0.000000000000000001分
 11 約0.0000000000000000005分
 12 約0.0000000000000000002分
 13 約0.0000000000000000001分
 14 約0.00000000000000000005分
 15 約0.00000000000000000002分
 16 約0.00000000000000000001分
 17 約0.000000000000000000005分
 18 約0.000000000000000000002分
 19 約0.000000000000000000001分
 20 約0.0000000000000000000005分
 21 約0.0000000000000000000002分
 22 約0.0000000000000000000001分
 23 約0.00000000000000000000005分
 24 約0.00000000000000000000002分
 25 約0.00000000000000000000001分
 26 約0.000000000000000000000005分
 27 約0.000000000000000000000002分
 28 約0.000000000000000000000001分
 29 約0.0000000000000000000000005分
 30 約0.0000000000000000000000002分
 31 約0.0000000000000000000000001分
 32 約0.00000000000000000000000005分
 33 約0.00000000000000000000000002分
 34 約0.00000000000000000000000001分
 35 約0.000000000000000000000000005分
 36 約0.000000000000000000000000002分
 37 約0.000000000000000000000000001分
 38 約0.0000000000000000000000000005分
 39 約0.0000000000000000000000000002分
 40 約0.0000000000000000000000000001分
 41 約0.00000000000000000000000000005分
 42 約0.00000000000000000000000000002分
 43 約0.00000000000000000000000000001分
 44 約0.000000000000000000000000000005分
 45 約0.000000000000000000000000000002分
 46 約0.000000000000000000000000000001分
 47 約0.0000000000000000000000000000005分
 48 約0.0000000000000000000000000000002分
 49 約0.0000000000000000000000000000001分
 50 約0.00000000000000000000000000000005分
 51 約0.00000000000000000000000000000002分
 52 約0.00000000000000000000000000000001分
 53 約0.000000000000000000000000000000005分
 54 約0.000000000000000000000000000000002分
 55 約0.000000000000000000000000000000001分
 56 約0.0000000000000000000000000000000005分
 57 約0.0000000000000000000000000000000002分
 58 約0.0000000000000000000000000000000001分
 59 約0.00000000000000000000000000000000005分
 60 約0.00000000000000000000000000000000002分
 61 約0.00000000000000000000000000000000001分
 62 約0.000000000000000000000000000000000005分
 63 約0.000000000000000000000000000000000002分
 64 約0.000000000000000000000000000000000001分
 65 約0.0000000000000000000000000000000000005分
 66 約0.0000000000000000000000000000000000002分
 67 約0.0000000000000000000000000000000000001分
 68 約0.00000000000000000000000000000000000005分
 69 約0.00000000000000000000000000000000000002分
 70 約0.00000000000000000000000000000000000001分
 71 約0.000000000000000000000000000000000000005分
 72 約0.000000000000000000000000000000000000002分
 73 約0.000000000000000000000000000000000000001分
 74 約0.0000000000000000000000000000000000000005分
 75 約0.0000000000000000000000000000000000000002分
 76 約0.0000000000000000000000000000000000000001分
 77 約0.005分
 78 約0.002分
 79 約0.001分
 80 約0.0005分
 81 約0.0002分
 82 約0.0001分
 83 約0.005分
 84 約0.002分
 85 約0.001分
 86 約0.0005分
 87 約0.0002分
 88 約0.0001分
 89 約0.005分
 90 約0.002分
 91 約0.001分
 92 約0.0005分
 93 約0.0002分
 94 約0.0001分
 95 約0.005分
 96 約0.002分
 97 約0.001分
 98 約0.0005分
 99 約0.0002分
 100 約0.0001分

■グループで話し合う生活課題・テーマは？

ヘルシーおやつで、おいしく、健康に！

■テーマ設定の理由は？その生活課題の原因は何だろうか？

学校帰りの「買い食い」が楽しい
 いつも、ファストフードやスナック
 おいしくて手軽

■なぜ左記のような原因が起こるのか背景を考えよう

部活でお腹がすくので、ついつい買ってしまう
 栄養や健康への知識が不足
 友達同士で食べるのは楽しい

■グループで考えた改善のための方策・アイデア

- 野菜や豆腐を使ったヘルシーメニュー考案
- 手作りする→友達にも配る →冷凍保存
- 友達同士で作るのも楽しい
- 子どものうちから栄養やおやつについて学ぶ
- 買うときは表示をみる
- スナックではなく、ほし芋、ヨーグルトや果物も食べる

■解決のために個人や家族でできること

- 手作りする
- 家族や友達に作ってあげる
- 一緒に作る
- 家族で栄養について話す
- 果物やヨーグルトなどを置いておく

■解決のために地域

- 手作りおやつ教室を開催
- 子どもやママへの栄養教室
- ヘルシーなおやつを店においてもらう

前時の考察をもとに、グループで話し合う。
 1班2分程度で

よりよい生活のために～生活課題を見だし、改善策を探ろう～ 1年 組 番 氏名

グループ員名

■夏休みのHPから見てくること・・・

特 徴	料理 体験が多い							
考 察								

グループ内でテーマを1つ選び、再度、課題と改善点を探ろう

■グループで話し合う生活課題・テーマは？

■生活課題の原因は何だろうか？

■なぜ左記のような原因が起こるのか背景を考えよう

■グループで考えた改善のための方策・アイデア

■解決のために個人や家族でできること

■解決のために地域でできること

■解決のために市や国にできること

～本時の学習目標と自己評価～

発表での気づき・今後の生活に生かしたいことは？

- ・丘珠生の生活課題や改善策に関心をもって考察し、自分の生活にも生かそうとしている A B C D
- ・グループでの話し合いから、新たな課題や改善策を探り、知識や考えを深める A B C D

(2) 学校家庭クラブ活動、学校家庭クラブ活動に関連させた指導例

<実践事例3>「家庭基礎」における高齢者施設訪問・交流から学校家庭クラブ活動に発展させた実践例

昨年度アンケート結果を踏まえ

- ① 生徒に身に付けさせたい資質・能力（他者と協働する力、地域に貢献する力）
- ② 重点指導内容（高齢者理解・支援する行動力、学校家庭クラブ活動へ発展させる取組）
- ③ 指導方法（異世代交流、施設訪問、振り返りグループワーク）
- ④ 学校家庭クラブ活動の効果（協働性、コミュニケーション能力、地域を見直す力）
- ⑤ 学校家庭クラブ活動指導上の課題（時間の確保が難しい、指導方法が分からない、生徒の興味・関心を持たせ自主的に活動させにくい）に該当

【単元の指導計画】

【科目名】「家庭基礎」（2単位）

【単元名】高齢期の生活

【指導および評価計画】（全8時間）

- | | |
|-----------------------|-----------|
| ① 高齢期の心身の特徴と生活 | 3 時間（第1次） |
| ② 高齢者との交流・振り返り | 3 時間（第2次） |
| ③ 高齢社会の現状と福祉 | 2 時間（第3次） |
| ④ ボランティア活動（学校家庭クラブ活動） | （第4次）課外活動 |

	【ねらい】・◆学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第1次	【ねらい】 高齢期の心身の特徴と生活 ・人の一生を見通す長で高齢期をとらえ、高齢期における身体的特徴と心理的特徴について、高齢者疑似体験を通して理解させる。					
	◆高齢者疑似体験を通して加齢に伴う身体的な変化を体感し、高齢期に生じる生活課題を発見する。 ◆高齢期にはすべての機能が衰えるわけではないことや個人差があることについて理解する。 ◆学習したことを生かしレクリエーションを考案、グループで企画する。	●	●	●		・体験者、介助者それぞれの側からの体感したことをまとめている。 ・高齢期における身体的特徴や心理的特徴について理解している。 ・学習した内容を理解し、グループで協力してレクリエーションを企画している。 ◇ノート、ワークシート、観察法
第2次	【ねらい】 高齢者との交流・振り返り ・高齢者との交流やインタビューを通して、高齢者の生活に関心を持ち、高齢者と適切に関わることができるようにする。					
	◆高齢者と話すときの留意点等に配慮しながら、事前に準備したレクリエーションやインタビューを実施する。 ◆施設訪問後、実習の振り返りをワークシートにまとめる。 ◆施設訪問の感想や振り返りを付箋に書き出し、グループで共有し、成果や課題について考えを深め、模造紙にまとめて発表する。		●	●		・高齢者へのインタビューを通して、高齢期の生きがい、社会参加、健康問題と介護、整形の維持などについて具体的に考え、適切に関わることができる。 ・実習を振り返り、改善策についてまとめることができる。 ◇リフレクションシート、観察法
第3次	【ねらい】 高齢社会の現状と福祉 ・高齢社会の現状と今後の解決すべき課題について理解する。 ・高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について考えさせる。					
	◆人口の高齢化の背景や高齢社会の特徴を理解し、高齢化社会は社会を構成するどの世代にも関わる課題であることを認識する。 ◆高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について考える。	●	●			・高齢者にとっての福祉とはどうあるべきかを考える。 ・地域における世代間交流について前向きにとらえ、実践しようとしている。 ◇ノート、【ワークシート 1リフレクションシート】

第 4 次	【ねらい】 ボランティア活動（課外活動） ・高齢社会の現状や社会福祉に関して問題意識をもち、実際に地域福祉のための活動に参加しようという意識を高める。				
	◆ボランティア局や社会福祉協議会と連携し、町内独居老人への誕生日はがきの作成、福祉まつりへの参加 ☆施設訪問、レクリエーションの実施				

【本時の学習指導案】

本時の主題		高齢者との交流（高齢者施設訪問 1～2 時間目/3 時間）		
本時の目標		高齢者と関わる介護士の姿を観察し、高齢者と適切に関わることができる。		
過程	指導内容	学習活動	評価規準/評価方法	指導上の留意点
導入	・ 本時の学習内容、準備物の確認、施設へ移動（20分）	・ 本時の学習内容、準備物を確認後、速やかに徒歩で施設へ移動する。	【関心・意欲・態度】 ・ 必要な準備ができている。 ◇行動観察	・ 点呼後、準備物に不足がないか確認し、速やかに移動するよう促す。
	・ レクリエーションの運営	・ 高校生と高齢者7～8人でテーブルを囲み、グループ毎にインタビューを実施。	【技能】 ・ 高齢者と適切に関わることができる。 ◇行動観察	・ 運営以外の補助生徒にも積極的に声かけをするように促す。
展開	例1. 8421体操 「もしもし亀よ」の歌に合わせて肩をたたく。初めは左右8回ずつ、左右4回ずつ、2回、1回と続き、最後は胸の前でパンと手をたたく。 ポイント ・ リズムに合わせて次第に回数を減らしていくことで、身体および頭脳を鍛え			
	例2. 私は誰でしょう？ゲーム 生徒の幼少期の写真を見せ、それが誰かを生徒5人の中から当てる。 ポイント ・ 予測することで脳のトレーニングができる。 ・ 顔を見合わせながら行うため、コミュニケーションを図りやすい。			
まとめ	・ 高校生と高齢者7～8人でテーブルを囲み、グループ毎にインタビューを実施（15分）	・ 各自、考えてきた内容を聞く。	【関心・意欲・態度】 ・ 主体的に学習活動に取り組んでいる。 ◇行動観察	・ プライバシーに配慮させる。 ・ 事前学習を生かし、認知症の方々へ配慮するよう指示する。
	・ 学校へ移動後、ワークシートへ記入（20分）	・ 高齢者の様子や介護士との関わりの様子などをワークシートにまとめる。	【関心・意欲・態度】 ・ 地域福祉に関心を持ち、高齢期の生活について考えようとしている。 ◇行動観察、ワークシート	

【本時の学習指導案】

本時の主題		高齢者との交流の振り返り・まとめ（3時間目/3時間）		
本時の目標		高齢者を取り巻く諸問題について思考を深め、課題について具体的に考え、まとめたり発表したりしている。		
過程	指導内容	学習活動	評価規準/評価方法	指導上の留意点
導入	・ 本時の学習内容の確認、ワークシートの返却（5分）	・ 本時の学習内容を知る。	【関心・意欲・態度】 ・ 授業準備ができている。 ◇行動観察	・ ワークシートに考えを深めるよう促すコメントをつけて返却する。
展開	・ 実習を振り返り、成果と課題をそれぞれ付箋に記入する。（10分）	・ ワークシートにつけられたコメントを読み、自身の考えをさらに整理・進化させ、新たな気づきや疑問を記入していく。 ・ グループ毎に考えをまとめ、KJ法で表現したものを発表する。	【思考・判断・表現】 ・ 実習の成果と課題について、自分の意見をまとめることができる。 ◇行動観察、ワークシート	・ 付箋には、成果と課題をしっかりと記入するよう指示する。 ・ グループ内で分担し、付箋の項目分けも合わせて考え、発表が可能なことを伝える。
まとめ	・ リフレクシオンシート記入（5分） 【ワークシート1】	・ 学習をこれからの日常生活（課外活動、家庭生活、社会人になったとき等）のどのような場面に生かせるかを考える。 ・ ボランティア局や社会福祉協議会と連携し、有志による学校家庭クラブ活動へと発展させる。	【関心・意欲・態度】 ・ 当事者意識をもち、これからの日常生活に生かすことを考え、意見をまとめることができる。	

〔ワークシート 1〕 <高齢者福祉施設訪問のリフレクションシート>

	1 年	組	番 名 前
本日のリフレクションシート 1 学習を始める前に 2 振り返りを終えた後で			
～学習前と学習後の自分の考えを比較する～ (1) あなたの地域の高齢者とのかわりに対する考え方はどのように変化しましたか？ また、変化したことについて、どう感じていますか？ (2) 授業で学んだことをこれからの日常生活のどのような場面で生かしますか？ 場面を一つ選んで考えを記入してください。 家庭科以外の授業・課外活動・家庭生活・社会人になったとき（どれか選択して○をつける） 考 え (3) 次の項目について当てはまるものにチェックレをつけましょう。 ① 高校生として高齢者と地域交流することの意義について ☐よく理解できた ☐理解できた ☐あまり理解できなかった ☐理解できなかった ② 異なる意見や他者の考えを受け入れ、自分の考えを広げることが ☐よくできた ☐できた ☐あまりできなかった ☐できなかった ③ 地域社会の一員として地域福祉の充実に関心を持ち、住民相互の助け合いやボランティア活動に参加するとの意義について考えることが ☐よくできた ☐できた ☐あまりできなかった ☐できなかった (4) 本日の授業の感想や質問、教科担任へのコメントなど			

<実践事例4>「家庭基礎」における食生活の課題発見、「フードデザイン」における地域食材を使った地域連携・まちおこし活動から学校家庭クラブ活動に発展させた実践例

昨年度アンケート結果を踏まえ

- ① 生徒に身に付けさせたい資質・能力（課題を発見し解決する能力、他者と協働する力、地域に貢献する力）
- ② 重点指導内容（食育の推進、学校家庭クラブ活動）
- ③ 指導方法（地域連携、商品開発・企画）
- ④ 学校家庭クラブ活動の効果（地域を見直す力、リーダー性・積極性育成）
- ⑤ 学校家庭クラブ活動指導上の課題（指導方法が分からない）に該当

【単元の指導計画】

【科目名】「家庭基礎」（2単位・2年生）

【単元名】食事と健康

【指導と評価の計画】（全21時間）

- | | |
|-----------------------|------------|
| ① 食生活実態調査 | 2 時間（第1次） |
| ② 栄養と食材の安全性 | 10 時間（第2次） |
| ③ 食生活の課題発見（ホームプロジェクト） | 3 時間（第3次） |
| ④ 調理実習（3回） | 6 時間（第4次） |

	【ねらい】・◆学習活動・☆課外活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第1次	【ねらい】食生活実態調査 ・食生活指針や食生活の変化について理解し、食事の偏りや規則性など、個人の食生活の現状を踏まえ、現代の食生活を考えさせる。					
	◆昨日の食事内容や食事摂取時から現代の食生活の課題や食生活指針について理解し、食事摂取基準と比較して自分の食生活の課題を見つける。 ◆記録した自分自身の食事を「一汁三菜の献立」に変える。	●	●			・自分自身の食生活に関心をもち、自分の食生活の実態を把握できる。 ・食生活指針や食生活の変化について理解し、自らの食生活の課題を考えることができる。 ◇ワークシート、観察法、ノート、定期考査
第2次	【ねらい】栄養と食材の安全性 ・栄養素の昨日、各ライフステージの栄養的な特徴、自分や家族の過多・過小、一食分の適切な食事の量などを理解させる。					
	◆栄養素の機能、及び家族の各ライフステージの栄養的な特徴、食事摂取基準や食品群別摂取量の目安などを理解し、食生活の管理ができる。 ◆地産地消や遺伝子組み換え食品、フードマイレージ等について学び、食材の安全性について。	●		●		・栄養素の機能、各ライフステージの栄養的な特徴、食事摂取基準や食品群別摂取量の目安などが理解できる。 ・各栄養素が多く含まれる食材から、安全な食品が選択できる。 ◇ノート、小テスト、定期考査
第3次	【ねらい】食生活の課題発見（ホームプロジェクト） ・自分や家族の食生活の問題点を把握させ、その改善に向けた方策について考えさせる。 ・グループ学習を通して、様々な考え方があることを学び、食生活の問題点や改善に向けた方策について深める。					
	◆冬期休業中、自分と家族（異性）の食事内容を調査し、その食事内容から、食生活の課題を明確にしてまとめ、キーワードを書き出す。書き出したキーワードをグループ内で紹介する。 ◆紹介したキーワードについてグループで役割を決めて話し合い、食生活の課題や改善策について考えを深め、発表する。	●		●		・各家庭の生活課題を主体的に発見できる。 ◇自校制作プリント・ワークシート（HPレポート用紙） ・生活課題の中から、家庭科の知識・技能を活かして夏休みに達成可能な課題を見つけ、テーマを決定できる。 ◇自校制作プリント・ワークシート

第4次	【ねらい】調理実習 ・日常用いられている主な食品や身近な地域食材等を取り上げ、食品の栄養的特質と調理上の性質について理解させる。 ・環境に配慮した食品を考え、工夫させる。				
	◆食品や調理器具の扱い方、調理操作のタイミングなど、教師による師範調理や手順の説明から理解する。			●	・調理器具や食品の特徴を理解して、調理実習に取り組んでいる。 ◇観察法
	◆試食をし、環境に配慮した後片付けを行う。			●	・安全面、衛生面に配慮した片付けができる。 ◇観察法
	◆3回の調理実習を食品や調理器具を適切に扱いながら効率的な調理操作や役割分担をし、班員と協力して実施する。 ◆調理実習後、実習の感想・反省を記入する。				・調理法の要点を踏まえ、調理実習を通して調理方法を理解し、安全で適切な調理操作ができる。 ◇観察法、調理実習ワークシート ・調理実習について反省し、次回に生かそうとしている。 ◇ワークシート

【本時の学習指導案】

本時の主題		食生活の問題発見（ホームプロジェクト）（ 2 時間目／ 3 時間 ）		
本時の目標		自分や家族の食生活課題と改善策について、グループ学習を通じて意見を深め発表する。		
過程	指導内容	学習活動	評価規準/評価方法	指導上の留意点
導入	・本時の学習 内容の確認、プリント返却（5分）	・本時の学習内容を知る。	【関心・意欲・態度】 ・授業準備ができている。 ◇行動観察	・冬期休業中課題の返却までに全員のプリントへコメントを記入する。
展開	・家族の食生活の課題や食生活の善についてまとめ、キーワードを挙げる。（25分） ・4～5人一組のグループに分け、キーワードを紹介させる。（12分） ・発表順番を決めさせる。（5分） ・話し合った内容をグループ毎に発表させる。発表後、他のグループの質問をまとめ回答させる。（1グループ5分程度） ・プリントに意見をまとめさせる。	・冬期休業中に調査した家族の食生活について課題を見つける。 ・発見した課題の改善策をまとめ、キーワードを付箋に書く。 ・記入したキーワードを紹介する。 ・キーワードから食生活の課題・改善策について意見を深める。 ・各グループの発表者がじゃんけんを行い、発表の順番を決める。 ・1グループ5分程度で発表、質問されたことを回答し、修了する。 ・発表を聞くグループは、「問題点」「改善点」についてキーワードをプリントに記入。全ての発表が終了後、感想を記入する。	【思考・判断・表現】 ・家族の食生活の課題や食生活の改善について自分の意見をまとめ、キーワードに示すことができる。 【関心・意欲・態度】 ・食生活の課題について関心を持ち、課題解決について具体的に考えようとしている。 ・学習に主体的に取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 ・食生活の問題点について考え、発表することができる。 ・質問に対する回答をまとめることができる。 ・発表を聞き、プリントに課題解決に対する意見を記入することができる。	・考えがまとまらない生徒には前時で学習した内容を振り返らせ、気付かせる。 ・プライバシーに配慮しながらキーワードのみ紹介するよう促す。 ・役割は必ず1つ以上とし、「司会」「記録」「質問者」「回答者」とする。 ※「質問者」は重複しても良い。 ・スムーズな発表となるようサポートを行う。
まとめ	・次時の予告プリントを回収する。（3分）			

【単元の指導計画】

【科目名】「フードデザイン」（２単位・３年生）

【単元名】食育と食育推進運動～創作料理プロジェクト（学校家庭クラブ活動）

【指導と評価の計画】（全１４時間）

※ 授業時間に括弧書きで記載されている時間は放課後４時間、休日６時間で算出した課外活動時間である。

	指導内容	具体的な取組	授業時間
第１次	・食をテーマとして地元の活性化、創作料理の考案	・プロジェクト結成 ・地元学習 ・町内飲食店訪問 ・レシピ考案	２（８）
第２次	・創作料理の開発	・メニュー開発及び試作 ・校内試食	２（１６）
第３次	・創作料理プロジェクト経過報告及び前年度料理試作	・前年度料理の学校祭出店	２（１０）
第３次	・創作料理の試作、レシピの修正	・校内及び町内での試食会レシピ完成 ・町内関係機関の講話	２（１６）

◎ 他教科との連携 … 出店にかかわる商品名の記入（書道）

出店にかかわるチラシ作成（社会と情報）の依頼

第３次	・創作料理の試作	・創作料理の調理 ・アンケート収集 ・提供方法の確認 ・アンケート収集 ・創作料理のレシピ修正 ・創作料理の調理及び大会出場	２（１０） ２（１２）
第４次	プロジェクトの結果報告 本年度の振り返り	・町及び関係機関への報告 ・地域への復旧活動 （イベント参加）	２（１６）

		【ねらい】 ◆学習活動・☆課外活動・★他教科との連携				評価の観点 関 思 技 知		評価規準・評価方法	
第1次	【ねらい】 地元の活性化、創作料理の考案 ・知床羅臼の風土や食・自然の素晴らしさについて再発見し、創作料理を考案する。								
	◆羅臼町の自然や漁業の現状について理解する。 ◆羅臼の特産品を使用した創作料理を個人で考える。 ☆創作料理実践研究メンバーの決定、町内飲食店訪問、レシピ考察		●			●	・社会人講師の話から地元に関心を持ち、学習に取り組もうとしている。 ・学習した知識を基に、足りない情報を収集し、創作料理を考えることができる。 ◇ワークシート、観察法		
第2次	【ねらい】 創作料理の開発 ・考察した創作料理の改良を目指し、計画を立てながら施策する。 ・考案した創作料理を調理し、レシピの改善や調理方法の改善点を見つける。								
	◆創作料理を発表し、感想・改善点を付箋に記入する。 ◆似ている創作料理ごとにグループ分けをし、付箋に書かれた感想をもとに創作料理を改良する。 ◆グループで一つの創作料理を考案する。 ☆創作料理の試作・レシピの修正・校内試食			●		●	・自らの考えを求めて発表するとともに、他者の創作料理について改善点を記入できる。 ・自分の考えを伝え、仲間の意見をまとめアイデアを具体化することができる。 ◇観察法、ワークシート		
第3次	【ねらい】 創作料理の試作 ・校内外や地元関係機関等と連携を図り、地域の活性化につなげる活動を通し、地元の魅力に気付く。 ・創作料理を完成させる。								
	◆前年度の創作料理を調理する。 ☆前年度の創作料理による普及活動を行う。 「知床開き」「学校祭」への出店。 ◆自分たちの創作料理を試作し、「味・見た目・調理の手軽さ」について自己評価を行う。 ◆コンテスト出品料理を調理する。 ☆地元関係機関の講話、校内外での試食会、アンケート収集、レシピの完成、写真部によるビジュアル撮影 ★「書道」にて創作料理の商品名の記入 ★「社会と情報」にて創作料理のチラシ作成					●	・調理法の要点を踏まえ、調理実習を通して調理方法を理解し、安全で適切な調理操作ができる。 ・自己評価から、レシピや調理方法の改善点を表現できる。 ◇観察法、自己評価シート、調理実習ワークシート		

第 4 次	【ねらい】結果報告、振り返り ・本年度の活動内容を振り返り、次年度の活動へつなげられる。				
	◆実践研究メンバーから本戦結果報告。	●			・創作料理プロジェクトの活動を振り返り、課題や改善点をまとめることができる。 ◇発言、ワークシート
	◆創作料理プロジェクトの活動を振り返る。				

【本時の学習指導案】

本時の主題		創作料理プロジェクト（学校家庭クラブ活動）（ 1 時間目／ 6 時間 ）			
本時の目標		創作料理の開発を目指し、自分の意見を相手に伝え、仲間の意見をまとめ、アイデアを具体化する。			
過程	指導内容	学習活動	評価規準/評価方法	指導上の留意点	
導 入 展 開 ま と め	・プリントの配布、講師の紹介（3分）	・本時の学習内容を知る。		・プリントを配布し、講師の話聞く準備ができている。	
	・本時の学習内容の確認（5分） ・個人が考えた「創作料理」ワークシートを見て、感想を記入させる。（25分）	・本時の学習内容を知る。 ・ルールを守り、付箋に感想を記入する。	【関心・意欲・態度】 ・ルールを守り、付箋に感想の記入ができる。	・ネガティブな感想ではなく、ポジティブな感想を記入するよう指導する。	
	・自分の創作料理に書かれた感想を確認し、改善策を考えさせる。（7分）	・自分の創作料理に書かれた感想を確認し、改善策を考える。 ※「家庭基礎」で既習の食生活の課題解決も踏まえる	【思考・判断・表現】 ・付箋に書かれた感想を踏まえ、改善点を考えることができる。	・考えがまとまらない生徒へアドバイスをを行う。	
	・似ている創作料理ごとにグループを作り、新たな創作料理を考えさせる。（10分）		・改善策を生かした料理を考えることができる。	・和食、洋食、中華等の分類や食材等に注目して分類するようアドバイスをする。	
	・グループごとに、新たな創作料理を考えさせる。（25分）	・感想に書かれた内容とその改善点を発表し、感想や更なる改善策をワークシートにまとめる。	【技能】 ・自らの意見をまとめ、グループ内で発表することができる。	・アイデアがまとまらないグループへは、味だけでなく、見た目や香りなども重視するようアドバイスをを行う。	
	・創作料理をグループごとに発表させる。（10分） ・講師からの講評（10分）	・考案した創作料理をグループ毎に発表する。 ・講評をメモする。	【思考・判断・表現】 ・テーマに沿った創作料理を考え、発表している。 ・講評から得た改善点をまとめることができる。	・発表の準備が遅れているグループには、アドバイスをする。 ・講評をしっかりと聞き、アドバイスはメモするよう指示する。	
ま と め	・次時の予告 ワークシート回収（3分）	・ワークシートを回収する。	【関心・意欲・態度】 ・創作料理に感心をもち、意欲的に改善策を考えようとしている。		